

第95回 簿記実務検定第1級試験問題

原価計算

(制限時間 1 時間 30 分)

1 下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

当座預金	売掛金	製	品	第/工程半製品
素材	所得税預り金	健康保険料預り金	売	上
売上原価	賃金	健康保険料	特許権使用料	
減価償却費	棚卸減耗損費 (棚卸減耗)	製	造	第/工程製造
第2工程製造	賃率差異	本	社	工場

a. 単純総合原価計算を採用している茨城製作所は、月末に機械装置に対する減価償却費の月割額を消費高として計上した。ただし、1年分の減価償却高は $\yen 2,196,000$ である。

b. 個別原価計算を採用している神奈川製作所の1月末における素材の实地棚卸数量は 450kg であった。よって、次の素材に関する1月の資料にもとづいて、素材勘定の残高を修正した。なお、消費単価の計算は先入先出法によっている。

1月	1日	前月繰越	500kg	/kgにつき $\yen 1,230$	$\yen 615,000$
	6日	受入	$1,700\text{kg}$	/kgにつき $\yen 1,250$	$\yen 2,125,000$
	12日	払出	$1,600\text{kg}$		
	20日	受入	$1,400\text{kg}$	/kgにつき $\yen 1,320$	$\yen 1,848,000$
	24日	払出	$1,520\text{kg}$		

c. 会計期末にあたり、賃率差異勘定の残高を売上原価勘定に振り替えた。なお、賃率差異勘定の前月繰越高は $\yen 8,000$ (貸方) であり、当月の賃金の実際消費高は予定消費高より $\yen 6,000$ 少なく、この差額は賃率差異勘定に振り替えられている。

d. 個別原価計算を採用している埼玉製作所は、当月分の特許権使用料 $\yen 270,000$ の消費高を計上した。なお、特許権使用料は製造指図書#6に対するものである。

e. 工程別総合原価計算を採用している東京工業株式会社は、倉庫に保管してある第1工程完成品の一部を $\yen 1,560,000$ で売り渡し、代金は掛けとした。ただし、売り上げた半製品の原価は $\yen 1,300,000$ であり、売り上げのつど売上原価に計上している。なお、当社では第1工程の完成品原価はすべて第1工程半製品勘定に振り替えている。

f. 工場会計が独立している栃木製作所の本社は、工場の従業員の賃金 $\yen 1,690,000$ について、所得税額 $\yen 102,000$ および健康保険料 $\yen 58,000$ を控除した正味支払額を小切手を振り出して支払った。ただし、所得税預り金勘定および健康保険料預り金勘定は本社のみ に設けてある。(本社の仕訳)

2 群馬製作所は、組別総合原価計算を採用し、A組製品とB組製品を製造している。次の資料によって、組別総合原価計算表とB組製造勘定を完成しなさい。

- ただし、
- i 組間接費は直接作業時間を基準として配賦する。
 - ii 素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。
 - iii 月末仕掛品原価の計算は先入先出法による。
 - iv 正常減損は製造工程の終点で発生しており、正常減損費は完成品のみにも負担させる。

資 料

a. 月初仕掛品原価 A組 ¥1,342,000 (素材費 ¥705,000 加工費 ¥637,000)
 B組 ¥792,000 (素材費 ¥432,000 加工費 ¥360,000)

	A組直接費	B組直接費	組間接費
材料費	¥1,500,000	¥1,872,000	¥194,000
労務費	¥2,730,000	¥1,820,000	¥429,000
経費	¥630,000	¥580,000	¥217,000

生産データ	A組	B組
月初仕掛品	500個 (加工進捗度40%)	400個 (加工進捗度50%)
当月投入	1,000個	1,600個
合計	1,500個	2,000個
月末仕掛品	200個 (加工進捗度50%)	500個 (加工進捗度60%)
正常減損	100個	— 個
完成品	1,200個	1,500個

d. 直接作業時間 A組 2,100時間 B組 1,400時間

3 次の各問いに答えなさい。

(1) 次の にあてはまるもっとも適当な語を、下記の語群のなかから選び、その番号を記入しなさい。

個別原価計算で用いる原価要素には、製品との関連で製造指図書ごとに直接集計することのできる消費高と、直接集計することのできない消費高がある。このうち製造指図書ごとに直接集計することのできる消費高を ア といい、製造指図書ごとに集計する手続きを イ という。

1. 配 賦 2. 製造直接費 3. 賦 課 4. 製造間接費

(2) 愛媛製作所における次の勘定記録・製造原価報告書・損益計算書（一部）により、(ア) から (ウ) に入る金額を求めなさい。ただし、会計期間は原価計算期間と一致しているものとする。

製造間接費		製 造	
素 材	12,000	前期繰越 ()	製 品 ()
工場消耗品 (ア)		素 材	3,405,000
賃 金	35,000	賃 金	1,135,000
給 料	180,000	外注加工賃 ()	
健康保険料	67,500	製造間接費	886,000
退職給付費用	103,000	()	()
減価償却費	240,000		
電力料	120,000		
保管料	51,000		
棚卸減耗損	13,500		
()	()		

製 品	
前期繰越	350,000
製 造 ()	()
()	()
売上原価 ()	()
次期繰越	341,000
()	()

製造原価報告書	
愛媛製作所 令和〇年/月/日から令和〇年/2月3/日まで (単位: 円)	
I 材料費	3,481,000
II 労務費	()
III 経費	(イ)
当期製造費用	5,706,000
期首仕掛品棚卸高	256,000
合計	()
期末仕掛品棚卸高	()
当期製品製造原価	()

損益計算書 (一部)	
愛媛製作所 令和〇年/月/日から令和〇年/2月3/日まで (単位: 円)	
I 売上高	9,400,000
II 売上原価	()
1. 期首製品棚卸高	()
2. 当期製品製造原価	()
合計	()
3. 期末製品棚卸高	() ()
売上総利益	(ウ)

(3) 徳島工業株式会社は、単純総合原価計算によって総合原価を計算したあと、等級別製品の原価を計算している。次の資料によって、ノ級製品の製品単価（単位原価）を求めなさい。

ただし、i 等価係数は、各製品のノ個あたりの重量を基準としている。

ii 素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。

iii 月末仕掛品原価の計算は平均法による。

資料

① 生産データ	④ 製品ノ個あたりの重量
月初仕掛品 8,000g (加工進捗度50%)	ノ級製品 20g
当月投入 22,000g	2級製品 8g
合計 30,000g	⑤ 完成品数量
月末仕掛品 5,000g (加工進捗度40%)	ノ級製品 1,000個
完成品 25,000g	2級製品 625個
② 月初仕掛品原価 素材費 ¥2,024,000 加工費 ¥ 676,000	
③ 当月製造費用 素材費 ¥5,386,000 加工費 ¥3,914,000	

(4) 香川製作所では、直接原価計算をおこない利益計画をたてている。当月における下記の資料から、次の金額を求めなさい。ただし、月初・月末の仕掛品はなかった。

a. 変動売上原価 b. 損益分岐点の売上高

c. 販売単価を10%引き下げ、当月の販売数量を維持したとき、目標営業利益 ¥120,000を達成するための製品ノ個あたりの変動費を削減する金額

資料

- ① 全部原価計算による損益計算書 ② 製品の販売データ

I 売上高	2,000,000
II 売上原価	1,460,000
売上総利益	540,000
III 販売費及び一般管理費	420,000
営業利益	120,000

月初製品棚卸高	0個
当月完成品数量	500個
合計	500個
月末製品棚卸高	0個
当月販売数量	500個
③ 固定製造間接費	¥360,000
④ 固定販売費及び一般管理費	¥320,000
⑤ 貢献利益率	40%

(5) 標準原価計算を採用している高知製作所の当月における下記の資料から、次の金額を求めなさい。

a. 月末仕掛品の標準原価 b. 材料消費価格差異 c. 能率差異

ただし、i 素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。

ii 能率差異は、変動費能率差異と固定費能率差異を合計すること。

iii 解答欄の()のなかに不利差異の場合は(不利)、有利差異の場合は(有利)と記入すること。

資料

- ① 標準原価カード

	標準消費数量	標準単価	金額
直接材料費	8kg	¥200	¥1,600
	標準直接作業時間	標準賃率	
直接労務費	3時間	¥1,200	¥3,600
	標準直接作業時間	標準配賦率	
製造間接費	3時間	¥600	¥1,800
	製品ノ個あたりの標準原価		¥7,000

② 生産データ

月初仕掛品	400個 (加工進捗度40%)
当月投入	2,200個
合計	2,600個
月末仕掛品	300個 (加工進捗度50%)
完成品	2,300個

③ 実際直接材料費

実際消費数量	18,000kg
実際単価	¥210

④ 実際直接作業時間 7,010時間

⑤ 製造間接費実際発生額 ¥4,173,000

⑥ 製造間接費予算 (公式法変動予算)

変動費率	¥200
固定費予算	¥2,840,000
基準操業度 (直接作業時間)	7,100時間

4 個別原価計算を採用している千葉製作所の下記の取引によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) /月27日の取引の仕訳を示しなさい。
- (2) 素材勘定・製造間接費勘定・第1製造部門費勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。
- (3) A製品（製造指図書#1）の原価計算表を作成しなさい。
- (4) 部門費振替表を相互配賦法によって完成しなさい。
- (5) 実際平均賃率を求めなさい。

ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。

素 材 200個 @ ¥3,400 ¥ 680,000
 工場消耗品 320〃 〃 〃 80 ¥ 25,600
 仕 掛 品（製造指図書#1） ¥2,649,600（原価計算表に記入済み）

- ii 素材の消費高の計算は移動平均法、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。
- iii 賃金の消費高は作業時間法による予定賃率を用いて計算し、消費賃金勘定を用いて記帳している。
/年間の予定賃金総額 ¥40,200,000 /年間の予定総作業時間30,000時間
- iv 製造間接費は部門別計算をおこない、直接作業時間を配賦基準として予定配賦している。
予定配賦率 第1製造部門 ¥580 第2製造部門 ¥400

取 引

/月 6日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。

素 材 800個 @ ¥3,300 ¥2,640,000
 工場消耗品 1,800〃 〃 〃 80 ¥ 144,000

/2日 B製品（製造指図書#2）の注文を受け、素材700個を消費して製造を開始した。

25日 賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。

賃金総額 ¥3,280,000
 うち、控除額 所得税 ¥254,000 健康保険料 ¥176,000

27日 A製品（製造指図書#1）60個が完成した。なお、A製品の賃金予定消費高と製造部門費予定配賦高を、次の作業時間によって計算し、原価計算表に記入した。ただし、賃金予定消費高と製造部門費予定配賦高を計上する仕訳は、月末におこなっている。

製造指図書#1 / 1,000時間（第1製造部門480時間 第2製造部門520時間）

31日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は270個であった。よって、消費高を計上した。（間接材料）

② 当月の作業時間は、次のとおりであった。よって、当月の賃金予定消費高を計上した。

		合計	内訳	
			第1製造部門	第2製造部門
直接作業時間	製造指図書#1	1,000時間	480時間	520時間
	製造指図書#2	1,200時間	640時間	560時間
間接作業時間		300時間		

③ 上記②の直接作業時間によって、製造部門費を予定配賦した。

④ 健康保険料の事業主負担分 ¥176,000 を計上した。

⑤ 当月の製造経費消費高を計上した。

電力料 ¥157,000 保険料 ¥28,000 減価償却費 ¥165,000

⑥ 製造間接費を次のように各部門に配分した。

第1製造部門 ¥548,500 第2製造部門 ¥343,500
 動力部門 ¥144,000 修繕部門 ¥40,000

⑦ 補助部門費を次の配賦基準によって各製造部門に配賦した。

	配賦基準	第1製造部門	第2製造部門	動力部門	修繕部門
動力部門費	kW数×運転時間数	30kW×600時間	25kW×560時間	———	20kW×200時間
修繕部門費	修繕回数	9回	7回	4回	———

⑧ 当月の賃金実際消費高 ¥3,480,000 を計上した。

⑨ 賃金の予定消費高と実際消費高との差額を、賃率差異勘定に振り替えた。

⑩ 第1製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。

⑪ 第2製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。

第95回 簿記実務検定 1級 原価計算 [解答用紙]

	借 方	貸 方
1		
a		
b		
c		
d		
e		
f		

1 得点		2 得点		3 得点		4 得点		総得点	
----------------	--	----------------	--	----------------	--	----------------	--	-----	--

試 験 場 校	受 験 番 号

2

組別総合原価計算表

令和〇年/月分

摘 要		A 組	B 組
組 直 接 費	素材費		
	加工費		
組 間 接 費	加工費		
当 月 製 造 費 用			
月初仕掛品原価	素材費	705,000	432,000
	加工費	637,000	360,000
計			
月末仕掛品原価	素材費		585,000
	加工費	322,000	
完 成 品 原 価			
完 成 品 数 量		個	個
製 品 単 価		¥	¥

B 組 製 造

前 月 繰 越	792,000	() ()
素 材	1,872,000	次 月 繰 越 ()
労 務 費	1,820,000	
経 費	580,000	
() ()		
() ()		() ()

2	
得点	

3

(1)

ア	イ

(2)

ア	\neq
イ	\neq
ウ	\neq

(3)

\neq

(4)

a	\neq
b	\neq
c	\neq

(5)

a	\neq
b	\neq ()
c	\neq ()

3	
得点	

4

(1)

	借 方	貸 方
/月27日		

(2)

素 材	
1/1 前 月 繰 越	680,000
製 造 間 接 費	
第 / 製 造 部 門 費	

(3) 製造指図書 # / 原 価 計 算 表

直接材料費	直接労務費	製 造 間 接 費				集 計	
		部 門	時 間	配 賦 率	金 額	摘 要	金 額
1,632,000	710,200	第1	530	580	307,400	直接材料費	
						直接労務費	
						製造間接費	
						製造原価	
						完成品数量	個
						製品単価	¥

(4) 部 門 費 振 替 表

相互配賦法 令和〇年/月分

部 門 費	配 賦 基 準	金 額	製 造 部 門		補 助 部 門	
			第1部門	第2部門	動力部門	修繕部門
部門費合計		1,076,000	548,500	343,500	144,000	40,000
動力部門費	kW数×運転時間数				—	
修繕部門費	修繕回数					—
第1次配賦額						
動力部門費	kW数×運転時間数					
修繕部門費	修繕回数					
第2次配賦額						
製造部門費合計						

(5) ¥

4	
得点	